



1. 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

1 市民病院として果たすべき役割の発揮

- (1) 救急医療への対応・・・4
 - ・年度終盤に新型コロナウイルスの影響を受け搬送受入は前年度を下回ったが、救急要請に対する不応率の改善を図るとともに入院や手術を要する重症患者の受入れを積極的に行い高い活動実績を維持した。
- (2) 災害時等の医療協力・・・4
 - ・大規模災害を想定した災害訓練の実施や部署ごとのBCP策定など、災害発生時の医療活動の実効性確保を図った。
- (3) 予防医療の提供・・・4
 - ・人間ドックは目標を上回る受診実績をあげ、疾病の早期発見・治療による予防医療を推進した。
- (4) 地域の医療機関との連携強化・・・4
 - ・医療の機能分化を推進し紹介率、逆紹介率を向上させた。また、高度急性期及び急性期病床に求められる機能や役割を充実させて圏域の地域医療構想の推進に貢献した。

2 高度・専門医療の提供及び医療水準の向上

- (1) 高度・専門医療への取組（5大センター、5疾病）・・・4
 - ・消化器C：内視鏡検査体制に加え、消化器領域へダヴィンチを導入した。
 - ・心臓血管C：冠動脈インターベンション、アブレーション、デバイス等の治療実績を維持向上させた。
 - ・子どもC：小児気道外来や先天性心疾患等の専門医療の拡充を図った。
 - ・周産母子C：ハイリスク妊産婦や超低出生体重児を24時間365日受入れる体制を維持した。
 - ・がん集学的治療C：放射線治療医や遺伝カウンセラーなど治療体制の拡充を図り、地域がん診療連携拠点病院として国の指定を受けた。
- (2) 総合診療体制とチーム医療の充実・・・4
 - ・放射線治療科を新設しがん治療体制の充実を図った。手術室の増設により手術件数を増加させた。IVナースの育成や専門性の高い医師事務作業補助者を養成しチーム医療を推進した。
- (3) 専門性及び医療技術の向上・・・3
 - ・マグネティックナビゲーションシステムは適用症例の増加に伴い目標を達成した。ダヴィンチは腎がんや直腸がんに適用を拡大したが、運用期間が少なく症例が集まらず目標未達となった。看護外来は活動を拡充し質の高い療養支援を実施した。
- (4) 臨床研究及び治験の推進・・・4
 - ・文部科学省所管の科学研究費助成事業の研究施設の認定を受け、研究活動を支援していく体制を整備した。

3 安全で信頼される医療の提供

- (1) 医療安全対策の徹底・・・4
 - ・研修を通じて全職員の安全意識を喚起するとともに、すべての確認行動について検証し行動マニュアルの実効性を向上させた。新型コロナウイルス感染症対策を適切に実施し院内感染を防ぎ診療体制を維持した。
- (2) 患者とともに進める医療の推進・・・4
 - ・在宅医療支援室が中心となり退院前後の訪問指導やかかりつけ医の紹介を進め、患者の療養生活を支援する活動に取り組んだ。がん相談をはじめ気軽に悩みを相談できる体制を充実させた。
- (3) 患者ニーズに対応したサービスの充実・・・3
 - ・職員の接客力の向上に取り組むとともに「ご意見箱」など患者や来院者の意向を汲み取りながら多方面で改善を進め、患者満足度アンケートでは入院・外来ともに満足度を向上させた。
- (4) わかりやすい情報提供の推進・・・3
 - ・広報誌「つつじ」の誌面充実を図りながら、タイムリーな情報発信を行った。ホームページの満足度は向上した。

4 優れた医療従事者の確保及び育成

- (1) 優れた医療従事者の確保・・・4
 - ・初期臨床研修医30人を含む医師数は232人となり計画どおりの人員を確保するとともに、診療体制の充実に必要な看護師及び医療技術職員についても適宜確保することができた。
- (2) 臨床研修病院としての機能の発揮・・・4
 - ・初期研修では86人の指導医のもと研修体制を充実させた。内科専門医研修の基幹施設として18人の専攻医を擁し研修体制を確立するとともに次年度外科プログラムで4人の採用を確保した。
- (3) 人材育成・教育体制の充実・・・4
 - ・教育支援センターに専任の教育担当2人を配置し運営体制を充実させた。新たにシステミックコーチング手法を取り入れ管理職員の人材育成能力の開発を進めた。

2. 業務運営の改善及び効率化に関する事項

1 自律性、機動性及び透明性の発揮

- (1) 柔軟で即応性のある組織運営・・・4
 - ・理事会、執行部会議等を定期開催し、迅速な方針決定のもとで運営上の課題に即応できた。
- (2) 経営管理能力の向上・・・4
 - ・各部署で目標管理制度の運用が定着し年度計画を着実に推進した。
- (3) 効率的な業務体制の推進・・・3
 - ・課題解決型プロジェクトチームを設置し、薬剤・検体搬送業務の自動化によって業務の効率化を図った。
- (4) 業務管理（リスク管理）の充実・・・3
 - ・システム監査を実施し情報管理の重要性を職員に啓発した。外部インターネットとの分離によりセキュリティ対策を強化した。

2 やりがいを持てる病院づくり

- (1) 職員の満足度の向上・・・3
 - ・職員アンケートの満足度が改善し、8割以上の職員が仕事に対するやりがいを実感している。
- (2) 人事制度の効果的な活用・・・3
 - ・評価者と部下とのコミュニケーションを通して、丁寧な制度運用のもと人事評価を定着させた。
- (3) 働きやすい職場環境の整備・・・3
 - ・所属長による長時間勤務と休暇取得の管理を徹底し、組織全体で働き方への意識改革を進めた。病児保育の運用を開始し、子育て支援を推進した。

3. 財務内容の改善に関する事項

1 経営機能の強化・・・4

- ・密度の高い診療体制により医業収益を確実に確保する収益構造を実現し、経常収支比率及び医業収支比率はいずれも目標値を超える水準となり経営の安定化が図られている。診療機能が評価され次年度からDPC特定病院群に指定された。

2 収益の確保及び費用の節減

- (1) 収益の確保・・・4
 - ・診療単価は入院、外来いずれも上昇しており、外来収益を大きく向上させた。平均在院日数の短縮により病床稼働率や延入院患者数はやや低下したが、新入院患者を確実に増やすことで収益の確保につなげた。
 - ・カルテ監査等を通して、診療報酬請求に係る査定減率の低下に努めた。
- (2) 費用の節減・・・4
 - ・主要な費用である給与費、診療材料費及び経費については、目標内に支出を抑えることができた。診療の高度化に対して高価な医薬品の需要が高まったことなどから医薬品費が増加しコストを引き上げる要因となった。

4. その他業務運営に関する重要事項

2 地域社会への貢献

- (1) 実習施設としての役割・・・4
 - ・医師、看護師をはじめ多様な医療職種の実習生を多数受け入れるとともに、大学や関連施設へ講師を派遣するなど基幹病院として地域における医療人材の育成に貢献した。
- (2) まちづくりへの参画・・・3
 - ・地域医療構想や救急医療、災害時の医療提供体制、地域包括ケアシステム等、地域課題について兵庫県、加古川市との連携の下に積極的に参画した。
- (3) 地域住民との交流・・・3
 - ・院内ボランティアの活動内容が多彩になり、病院運営に大きな力となっている。

3 加古川市の施策への協力

- (1) 地元農産物等の活用の推進・・・3
 - ・給食に加古川市内産米「ヒノヒカリ」の使用を定着させ、地元食材の利用促進に取り組んだ。
- (2) 環境にやさしい病院運営・・・3
 - ・コージェネレーションを活用し電気・ガスの効率的な使用を進め環境負荷の低減に努めた。

年度計画で定めた指標の目標達成状況

指標	目標値	実績値	達成率
救急車受入件数	7,700	7,579	98.4%
人間ドック受診者数	2,400	2,559	106.6%
紹介率	70.0	79.2	113.1%
逆紹介率	75.0	104.9	139.9%
高度急性期機能病床数	270	272	100.7%
急性期機能病床数	330	328	99.4%
上部内視鏡検査件数	8,540	8,295	97.1%
下部内視鏡検査件数	4,100	4,025	98.2%
冠動脈インターベンション件数	480	518	107.9%
アブレーション件数	310	302	97.4%
デバイス治療件数	190	202	106.3%
末梢血管インターベンション件数	240	222	92.5%
開心術・心血管手術件数	180	217	120.6%
心臓リハビリテーション単位数	28,000	33,102	118.2%
小児救急搬送受入件数	2,100	2,017	96.0%
分娩件数	900	720	80.0%
PET-CT件数	1,850	1,941	104.9%
放射線治療件数	6,800	7,193	105.8%
化学療法件数	8,500	10,011	117.8%
手術件数	8,400	8,543	101.7%
MRI件数	20,600	22,347	108.5%
CT件数	52,300	55,140	105.4%
クリニカルパス使用率	65.0%	66.0%	101.5%
マグネティックナビゲーション件数	60	70	116.7%
手術支援ロボット件数	50	27	58.0%
患者満足度/入院	95.0%	93.5%	98.4%
患者満足度/外来	85.0%	83.5%	98.3%
医師数	203	202	99.5%
初期臨床研修医数	30	30	100.0%
職員満足度(7段階評価)	4.9	4.7	96.7%
累積経常利益(百万円)	6,934	8,012	115.5%
経常収支比率	103.8%	107.7%	103.8%
医業収支比率	101.7%	105.5%	103.7%
入院診療単価	79,150	80,470	101.7%
外来診療単価	18,300	20,150	110.1%
1日あたり入院患者数	546	535	98.0%
1日あたり外来患者数	1,410	1,452	103.0%
病床稼働率	91.0%	89.2	98.0%
医業収益(百万円)	22,5939	23,379	103.5%
入院収益(百万円)	15,774	15,762	99.9%
外来収益(百万円)	6,219	7,020	112.9%
給与費比率/対医業収益	48.9%	46.4%	105.4%
診療材料費比率	14.7%	14.5%	101.4%
医薬品費比率	12.9%	13.8%	93.5%
経費比率/対医業収益	13.7%	12.6%	108.7%